

## 北九州市立高等学校の魅力向上事業について

### 1 経緯

- (1) 令和3年1月 中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
- (2) 令和3年4月21日 教育文化委員会報告  
「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」  
→ 「普通科」を「地域社会に関する学科」に変更 など

### 2 新学科検討の経過

- (1) 文部科学省  
「令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」採択
- (2) 産・官・学・民から構成される有識者会議の設置・協議（令和4年度）  
「市高魅力化コンソーシアム」  
「北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会」
- (3) スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの検討

### 3 「普通科」から「未来共創科」へ

- ・「普通科」を「未来共創科」に改称し、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学びを通して、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指す。
- ・総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な表現力・発信力の育成も目指す。

	R4年度の学科		定員	→	R6年度からの学科		定員
	組	学科			組	学科	
普通科	1組	普通科	80人	→	1組	未来共創科	120人
	2組	普通科			2組	未来共創科	
専門学科	1組	情報ビジネス科	120人		3組	未来共創科	
	2組	情報ビジネス科			1組	情報ビジネス科	80人
	3組	情報ビジネス科			2組	情報ビジネス科	

### 4 アンケート調査の実施

- ・北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン案を踏まえ、中学生及び保護者、北九州市立高等学校の生徒、大学・企業にアンケート調査を実施することで、今後のカリキュラムや学習内容に生かしていく。

# 北九州市立高等学校にかかる魅力向上プラン(案) ～「普通科」から「未来共創科」へ～

概要版

## はじめに

令和3年1月 中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」より

### 高等学校

#### (1)各学科に共通した基本的な考え方

- ①生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びの実現が必要
- ②高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換
- ③社会の変化や令和4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討
- ④主権者の一人としての自覚を深め、学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図る
- ⑤遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組合せを検討

#### (2)高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ①スクール・ミッションの再定義：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ②スクール・ポリシーの策定：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③普通科改革：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
- ④高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供 など

- 令和3年「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」を踏まえ、北九州市立高等学校のさらなる魅力向上を図り、生徒の学びの一層の充実に向けて取組を推進している。
- 令和4年度から文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、新しい学びの在り方などを議論している。

## 1 未来の社会の見通し

- AI やロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するが、代替しづらい職種や新たな技術開発を担う職種では雇用が増加するとの見通し。
- これからの時代に必要な能力・スキルは、基礎能力や高度な専門知識だけではなく、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められる。

### キーワード

ゼロからイチを生み出す能力

夢中を手放さず一つのことを掘り下げる姿勢

グローバルな社会課題を解決する意欲

多様性を受容し他者と協働する能力

## 2 社会構造の変化と従来の教育からの脱却について(令和答申より)

- 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代背景を踏まえて、よりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有していくことが必要。
- 「知識の習得」が重視された、従来の「コンテンツ・ベースの学び」から、「知識の習得だけでなく、知識を使う能力（思考力やコミュニケーション能力など）」の育成に重点を置いた「コンピテンシー・ベースの学び」、主体的・対話的な深い学びへと変化してきている。
- 学校教育を学校内に閉じるのではなく、地域の人的・物的資源も活用して、社会との連携及び協働によってその実現を図る「社会に開かれた教育課程」が重視されている。

### キーワード

教科等横断的な視点での教育内容等の組立て（STEAM教育）

カリキュラムマネジメント

ICTとの最適な組合せ など

### 3 高等学校改革等にかかる国の動向について

- 産業構造や社会システムが「非連続的」かつ急激に変化している現代では、実社会で求められる能力も日々刻々と変化している。
- 民法の改正により、令和4年に成年年齢と選挙権年齢が18歳に引き下げられた。主権者の一人として自覚を深めること、自立した「大人」として振る舞えるようになることが必要。
- 大学入試等においても、探究的な活動を通じて身に付く能力・資質等を評価する取組が求められている。

#### キーワード

個別最適な学び

協働的な学び

そろえる教育から伸ばす教育へ

多様な幸せ (well-being)

社会や民間の専門性やリソースの活用 (教育 DX)

一つの学校が全ての分野・機能を担う構造から協働する体制へ

デジタル技術

- 高等学校を選ぶ際に、多くの生徒は学校の特色・教育内容ではなく、いわゆる偏差値を基に選択している現状や、普通科では受験や就職に役立つ教科以外への意欲が薄れがちとの指摘もある。

➡ 国は、約7割の生徒が進学する「普通科」の画一的な在り方を見直し、偏差値ではなく、特色や魅力で選ばれる高等学校を増やし、授業についても生徒を惹きつける内容を充実させて、生徒の学習意欲を高めることを目的として、令和3年に学校教育法施行規則等の一部を改正した。

### 4 北九州市立高等学校にかかる現状と魅力向上に向けた取組

- 近年15歳以下の人口が減少しており、情報ビジネス科は志願倍率も下降傾向。
- 令和3年に、北九州市立高等学校は存続させるものの、地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実などの改革が急務であり、探究的な学習活動の充実や学科構成を変更することを決定。
- 令和4年度から文部科学省「普通科改革支援事業」の指定を受けている。有識者会議での議論なども踏まえて、新しい時代の学びの在り方や新学科での学校設定教科の内容などに生かしていく。
- 外部人材ならではの大胆な発想と幅広いネットワークを生かして、本市が目指す「市高の魅力向上」を推進するため、民間人校長を採用。
- 令和4年度中に北九州市立高等学校のスクール・ミッションを策定・公表予定。  
令和5年度末までに、スクール・ポリシーを策定・公表予定。

### 5 「普通科」から「未来共創科」へ

- 令和6年度から、従来の「普通科」を「未来共創科」に改称予定。定員変更も実施予定（未来共創科120名、情報ビジネス科80名へ。）
- 「未来共創科」では、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学びを通して、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに、総合型選抜（大学入試）の要となる表現力・発信力の育成を目指す学科へと進化させる。
- 「未来共創科」には、これまでの「普通科」で実施してきた教育課程に加えて、北九州市立高等学校独自の設定教科「(仮称)未来共創学」を新設する。
- 大学・企業・行政・地域などと連携・対話して、社会課題などに対する改善策を検討していく。
- 枠にとらわれない学びのスタイルや横断型の授業・教育活動を柔軟に組み込む。
- 本市が所管する施設等とも連携しながら、北九州市立高等学校ならではの探究活動の充実を図る。
- 「指導から支援へ」、「自前から外部との連携・協働」、より質の高い学びにつなげるための「授業研究」に重点を置き、北九州市立高等学校全体の底上げを図り、生徒の明るい未来につなげる。

## 北九州市立高等学校の概要（令和4年5月1日現在）

- ◇ 所在地 北九州市戸畑区浅生一丁目10番1号
- ◇ 開校 昭和38年
- ◇ 定員 600名（各学年200名×3学年）
  - 各学年の内訳： 普通科（各学年80名）
  - 情報ビジネス科（各学年120名）
- ◇ 生徒数 584名
- ◇ 沿革
  - 昭和38年 開校（開校時は北九州市立戸畑商業高等学校）
  - 平成11年 学科改編によって、①商業科（進学コース・ビジネスコース）及び②情報処理科の2学科へ
  - 平成19年 学科改編によって、①普通科及び②情報ビジネス科へ名称を「北九州市立高等学校」に変更
  - 平成29年 通学区域を「市内」→「県内」へ（平成30年度入学者～）
  - 令和元年 令和2年度入学者から情報ビジネス科の定員変更（160名→120名）
- ◇ 職員体制 72名

### 志願倍率

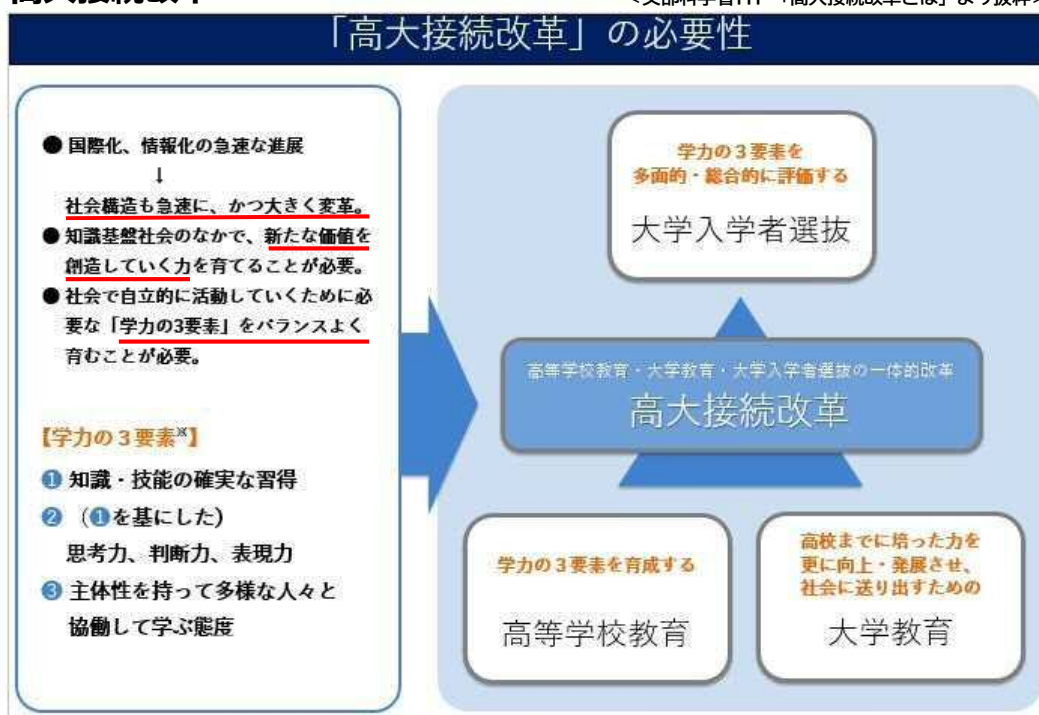


1

## 高等学校改革等にかかる国・北九州市の動向 ① 高大接続改革

### 1. 高大接続改革

<文部科学省HP「高大接続改革とは」より抜粋>



※ 学力の3要素は、中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～全ての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～（答申）」（平成26年12月22日）で示されたもの。

2



2. 高等学校改革

平成31年4月 文科省→中央教育審議会に諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」  
 ※ 諮問事項の一つに「新時代に対応した高等学校教育の在り方」

令和元年12月～令和2年8月 北九州市後期中等教育に関する検討会議（有識者会議）

令和2年8月 上記検討会議から「意見のまとめ」

【北九州市立高等学校】

- ・ 存続について、全体としては肯定的な意見が多かったものの、**改革も急務**
- ・ **地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実のため、「個別最適化」された学習や「探究活動」の推進、それを支えるための「学びの土壌づくり」、近隣の大学や地域社会との連携**などが重要

令和2年11月 中教審「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」から審議まとめ  
 「多様な生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある高等学校教育の実現に向けて」

令和3年1月 中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」

第Ⅱ部 各論「3 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について」

(1) 各学科に共通した基本的な考え方

- ① 様々な背景の生徒が在籍するため、**生徒の多様な能力・適正・興味・関心等に応じた学びの実現が必要**
- ② 高校での教育活動を、**高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するものへと転換**
- ③ **社会経済の変化**やR4年度から実施される新学習指導要領を踏まえた高校の在り方の検討が必要
- ④ 在学中の生徒が**主権者の一人としての自覚を深める学び**が求められており、**学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実**を図ることが必要
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された高校の役割や価値を踏まえ、**遠隔・オンラインと対面・オンラインの最適な組み合わせ**を検討

3

(2) 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高校の特色化・魅力化

- ① **スクール・ミッションの再定義**：各高校の存在意義・社会的役割等を明確化
- ② **スクール・ポリシーの策定**：各高校の入り口から出口までの教育活動の指針の策定
- ③ **普通科改革**：「普通科教育を主とする学科」の弾力化・大綱化
  - ・ 「普通科教育を主とする学科」を置く各高等学校が、各設置者の判断により、学際的な学びに重点的に取り組む学科、**地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科等を設置可能とする制度的措置**
  - ・ 新たな学科における教育課程においては、**学校設定教科・科目**や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設、国内外の関係機関との連携・協働体制の構築、**コーディネーターの配置**
- ④ 産業界と一体となって**地域産業界を支える革新的職業人材の育成**（専門学科改革）
- ⑤ 新しい時代にこそ求められる**総合学科における学びの推進**
- ⑥ 高等教育機関や**地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供**

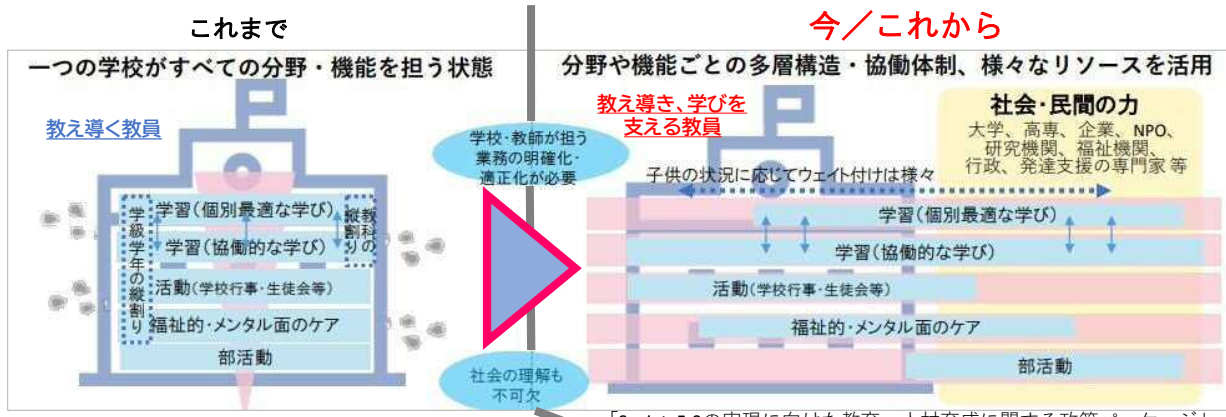
令和3年3月25日 教育委員会会議にて「北九州市における後期中等教育機関の今後の方針について」決定

【北九州市立高等学校】

- ◎ 「（仮称）市高タイム」の導入（R4年度から本格導入）
- ◎ **探究的な学習活動の充実**
- ◎ 学科構成の転換：**現在の普通科を「地域社会に関する学科」へ**  
 （※報告時の予定ではR5年度設置だったが、準備に時間を要するため、R6年度設置に変更）
- ◎ 「スクール・ポリシー」の策定（R5年度施行）

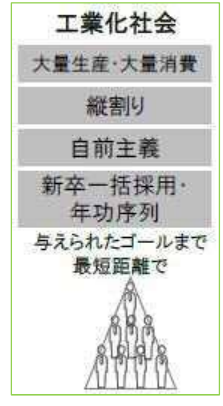
令和3年4月21日 上記方針を北九州市議会に報告

この方針に沿って、市立高校の魅力向上や取組の充実を図っていくことになりました 4

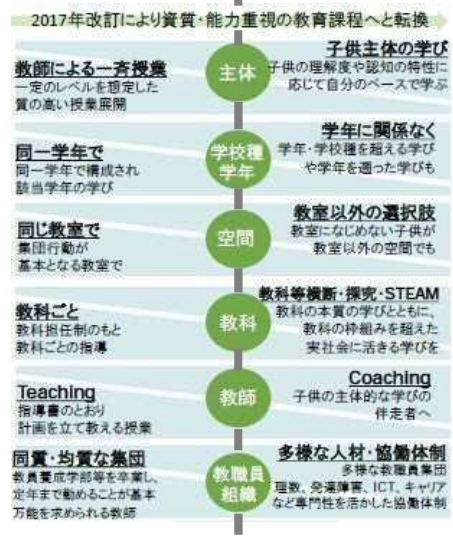


「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」より

ピラミッド組織の人の力で  
媒体をつないだ時代



- 「具体」のゴールあり
- 「モノ」を所有
- 業界内での競合、身内主義
- 連続的イノベーション



AI・DX・ビッグデータ...  
必要な解を自分で選ぶ時代  
必要な解・情報がやってくる時代

- 「抽象」の時代。正解なし
- 新サービスの誕生
- 分野を超えた競合や連携が当たり前
- 非連続なイノベーション

現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、  
将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性*	1.19
基本機能(読み、書き、計算、等)	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル:口頭	1.08
基盤スキル*	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
⋮	⋮	⋮	⋮

\*基盤スキル: 広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

\*革新性: 新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

経済産業省「未来人材ビジョン」より





# 新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化(普通科改革)や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を実現するため、令和4年度から設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

## 事業内容

<b>①普通科改革支援事業</b> 令和4年度より設置が可能となる学際領域学科及び地域社会学科を設置する予定の高等学校等に対し、設置にあたって義務化されている関係機関等との連携協力体制の整備や、配置が努力義務化されているコーディネーターの配置など、新学科設置の取組を推進する。 	<b>②創造的教育方法実践プログラム</b> 教科等横断的な学びの実現による資質・能力の育成の推進のため、遠隔・オンライン教育や質が確保された通信教育を活用した新たな方法による学びを実現する。具体的には、(1)Society 5.0に対応する先端的な学び、(2)自分のペースでの学習に着目し、同一設置者の学校間のみでなく、他地域における大学や研究機関、国際機関等の関係機関からの同時双方向型の授業を取り入れたカリキュラム開発を行い、新しい時代の学びを創造する。 	<b>③高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業 (PDCAサイクルの構築)</b> 高校と地域、関係団体等をつなぐコーディネーターの全国的なプラットフォームを構築する。プラットフォームにおいては、コーディネーター人材やコーディネーターを受け入れる学校に対する研修を行うとともに、コーディネーター間の情報共有を促す場を創出することで、コーディネーターが持続的効果的に活躍できるようにするとともに、成果指標の検証による高等学校改革のPDCAサイクルの構築を図る。 
<b>箇所数</b> ①24校 5,600千円/1校 ②8箇所 6,000千円/1校 ③1団体 20,000千円/1団体	<b>委託対象経費</b> ①新学科の設置に必要な経費(委託) ②新たな教育方法を用いた学びに必要な経費(委託) ③プラットフォームの構築や成果検証に必要な経費(委託)	

7

## 【北九州市立高等学校】地域社会にかかる新学科を設置(令和6年度予定)

**新学科の目的:**  
SDGsの視点から社会課題を捉え、探究活動と「産・官・学・民」の連携によって社会変革とビジネスの一致を目指すとともに、未来の社会や世界をけん引する力を備えた若者を育成します。

市民からさらに愛され、選ばれる学校へ

学校を支える人材: 地域住民、企業、大学、行政

地域から

探究的な学習活動の充実 (PBL、STEAM等の手法を用いた学び)  
SDGsをテーマに3年間に渡る学習を可能。学校内外の資源を活用し、専門家による研修などを通して学習活動を充実

学校設定の独自教科を新設  
企業や大学の協力で、情報ビジネス科との連携の下、社会問題・社会課題をビジネスの視点から着目し、解決に導くことを目指す。地方創生、新たな産業の創出

(仮称)「市高タイム」の導入  
資格講座、小論文講座、地域活動、部活動等を選択でき、自分の裁量で学べる個別最適化された学習環境を提供

地域を支える人材: 地域に愛着を持ち地域に貢献する人物、創造性や行動力をもった人物

地域へ

主体性・企画力・協働する力を持つ生徒の育成

コーディネーター: 外部との連携調整、考察のみならず、事業化などの視点も取り入れたカリキュラムの開発など

学びたいことを積極的に提案(主体性・企画力)

提案に応じた学校支援

情報ビジネス科との協働・交流(商業のノウハウなど)

運営指導委員会: 事業の目的・年間計画等の検討・承認

「産・官・学・民」連携によるコンソーシアム

「北九州市立」だからできること

- 市内唯一の「市立」高等学校である強み
  - 市立小・中・高と系統的な学びが可能
  - 北九州市役所の様々な部署(産業経済局、環境局等)との連携、協力体制を構築(多種多様な分野の外部人材、企業等との連携が可能)
- 「産・官・学・民」が連携して世界の環境都市に成長した実績
  - 「産・官・学・民」の力で公害を克服した実績(ピンチをチャンスに変えてきた「市民力」の精神)
  - 環境モデル都市、環境未来都市、SDGs未来都市等の取組を通じて、シビックプライドを醸成(北九州市民であることの誇り)

「産・官・学・民」が連携して公害を克服

OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

8

# 「普通科」から「未来共創科」へ

## スクール・ミッション (案)

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、「産・官・学・民」と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

### 未来共創科

生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と  
対話・連携・協働しながら**共に未来を創造**する学びを通して  
「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すとともに  
総合型選抜（大学入試）などにおいて必要な**表現力・発信力の育成**も目指す学科

### 学科構成

		R 4 年度の学科		定員			R 6 年度からの学科		定員
普通科	1組	普通科		80人	普通科	1組	未来共創科		120人
	2組	普通科				2組	未来共創科		
専門学科	1組	情報ビジネス科		120人		3組	未来共創科		
	2組	情報ビジネス科			専門学科	1組	情報ビジネス科		
	3組	情報ビジネス科				2組	情報ビジネス科		

### 進行イメージ

	R 5 年度			R 6 年度			R 7 年度			R 8 年度		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
1組	普通科	普通科	普通科	1組 新学科	普通科	普通科	1組 新学科	新学科	普通科	1組 新学科	新学科	新学科
2組	普通科	普通科	普通科	2組 新学科	普通科	普通科	2組 新学科	新学科	普通科	2組 新学科	新学科	新学科
3組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	3組 新学科	情ビ科	情ビ科	3組 新学科	新学科	情ビ科	3組 新学科	新学科	新学科
4組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組 情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組 情ビ科	情ビ科	情ビ科	4組 情ビ科	情ビ科	情ビ科
5組	情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組 情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組 情ビ科	情ビ科	情ビ科	5組 情ビ科	情ビ科	情ビ科

初実績

9

## 教育課程案 (未来共創科)

新学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	英コミⅠ	英語論表Ⅰ	家庭基礎	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実														
2年	文系 論理国語	文学国語	古典探究	数学Ⅱ	数学B	地理総合	日史探究/世史探究	化学基礎	体育	保健	情報Ⅰ	英コミⅡ(-1)	英語論表Ⅱ	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実														
	理系 論理国語	古典探究	数学Ⅱ	数学B	地理総合	化学基礎	物理/生物	化学	体育	保健	情報Ⅰ	英コミⅡ(-1)	英語論表Ⅱ	総探	学校設定教科	HR															
3年	文系 論理国語	文学国語	古典探究	数学C(+1)	日本探(+2)/世界探(+2)	政治経済	理科演習	教科演習	体育	英コミⅢ(-1)	英語論表Ⅱ(+2)	芸術Ⅰ	総探	学校設定教科	HR	教科等横断的な学びの充実															
	理系 論理国語	古典短探究	数学Ⅲ(+1)	数学C	地理探究	物理(+1)/生物(+1)	化学(+1)	体育	英コミⅢ(-1)	英語論表Ⅱ(+2)	芸術Ⅰ	総探	学校設定教科	HR																	

### 学校設定教科 (仮称「未来共創学」) での取組例

- ◆北九州市にゆかりがあり活躍されている方による講演やワークショップの設定 (ロールモデルとの出会い)
- ◆学校内外で、自分の世界観や視野を広げる機会の設定 (出前講義、対話、フィールドワーク、インターシップなど)
- ◆生徒が主体的に探究を行うための異学年の交流の場の設定
- ◆探究した内容を発表する場 (アウトプット) の設定 (学校内外)

10